

## アジア研究教育ユニット（特別経費）令和元年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	次世代グローバルワークショップ
<b>代表者名</b>	落合恵美子、安里和晃
<b>事業概要 (600字程度)</b>	<p>次世代グローバルワークショップは、国際連携大学の次世代研究者（大学院生・PD 研究員等）と国際連携大学の教員が一同に会して開催するもので、世界から集まった同世代の院生や若手研究者の前で、英語で自分の研究成果を発表し、世界の第一線の研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果を狙ったものである。国際会議での報告のみならず、司会など運営の経験も積み、さらに英文での論文執筆力を涵養し、ジャーナル投稿への橋渡しとなる重要な機会である。これまで、グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、「国境を越えたクラスメートをつくる」ことを謳い文句に、2008年から年に1度開催し、2013年からその活動をKUASUが引き継いでいる。今回は12回目の開催となる。</p>
<b>成果の概要 (800字程度)</b>	<p>アジア研究教育ユニットは、10月25日(金)~26日(土)に文学部校舎にて第12回次世代グローバルワークショップを開催した。今回は2日間で8か国からの海外参加者20名を含む合計43名が参加し、「不平等(Inequalities)」をテーマに、社会学、文学、哲学など人文・社会科学の観点から研究発表および討論を行った。今回は9名の教員による2つのパネルディスカッションも実施した。落合恵美子 アジア研究教育ユニット長、湊長博 理事・副学長からの挨拶の後、「エスニシティと不平等」「不平等と倫理」「植民地主義・ポスト植民地主義と不平等」「宗教・カーストとジェンダー」「ジェンダーと権力」「暴力」の分科会に分かれ、海外参加者を含む20名の大学院生等による研究報告が行われた。報告者は学内外の教員からのコメントを得るなど、自らの研究を研鑽する貴重な機会を得ている。</p> <p>参加者からは「他の報告の問題意識の鋭さに大いなる刺激を受けた」「多分野の専門にまたがる会議を堪能した」「これからもワークショップの参加者として京都大学を訪問する機会を楽しみにしています」といった声が寄せられた。</p> <p>ワークショップの成果としてProceedingsを作成し、HPに掲載する。これにより参加者は研究報告と論文執筆の2つの業績を上げることができ、貴重な経験となっている。ワークショップの経験は、一人前の研究者として、国際会議での本格的な報告に向けての第一歩になることが期待される。</p>